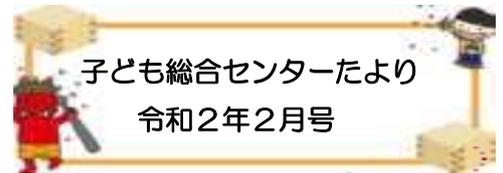




あした

明日もしあわせ通信 (第44号)



子ども総合センターたより

令和2年2月号

あなたもくじけずに

群馬県の草津温泉にはじめて行った。湯畑を見て歩き、西野河原公園沿いに歩く傍らに片岡鶴太郎美術館があった。館内に入り作品を見て回る。その作品の中に、「100歳の詩人」として一躍時の人となった柴田トヨさんの詩に鶴太郎さんが添え書きした作品が何点かあった。鶴太郎さんの素朴で味わい深い作品。その中に柴田トヨさんの心の思いが被さり、しばらくの間、立ちすくんでしまった。

ことば

「何気なく言ったことばが 人をどれほど 傷つけていたか 後になって 気がつくことがある そんな私はいそいで その人の心の中を 訪ねごめんなさい と言いながら消しゴムとエンピツでことばを修正していく」

明治・大正・昭和・平成を生き抜いた柴田トヨさんは、老衰のため老人ホームで101歳の生涯を閉じられた。詩集「くじけないで」は160万部を超えるベストセラーとなった。



(草津温泉 湯畑)

「ねえ 不幸だなんて 溜息をつかないで 日差しやそよ風はえこひいきしない 夢は平等に見られるのよ 私 辛いことがあったけど生きていてよかった あなたもくじけずに」

(柴田 トヨ 101歳 没)

令和の新時代。静かに読んでみたい詩集である。

(K・H)

いよじょのしゃべり場

2月26日(水)

13:00~15:00

総合保健福祉センター3階

「みんくる」でやってます♪



適応指導教室「はばたき」

～ 子どもは子ども同士の関わりから育っていく ～

不登校や相談室登校などになると家庭で過ごす時間が多くなり、「人と話したくない」「人に会いたくない」と言ってあまり外出しなくなります。中には、話す友達もいなくて目的のない毎日を送っている子もいます。

家族だけで悩んでいる保護者の方やお子さん方、一度はばたき教室に来て実際に活動の様子を見学してみませんか？

はばたき教室の子どもたちは、少人数の中で毎日一緒に過ごしていることで、必然的に他の人との関わりが出てきます。その関わりを通して子どもたちは、自分でも気が付かないうちに笑顔が出て、自分から話しかけるようになっていきます。

信じられないかもしれませんが本当です。子どもたちは友達と話したり一緒に体験をしたりすることで、少しずつエネルギーもたまり、友達と関わることでどんどん心も身体も元気になっていきます。子どもが将来自立するためには、社会の中で人と関わる事ができる力が何より大切です。

是非、はばたき教室の様子をご自分の目で見て、実際に体験をしてみてください。

お子様の不登校や適応指導教室に関する相談の連絡先 (電話番号089-989-5022 直通)

そだてる言葉 ささえる言葉

「少年寅次郎」。フーテンの寅さんこと車寅次郎の出生から気ままな旅に出るまでを描いたNHKのドラマ。母さん役の井上真央が実に魅力的であった。

放蕩者の父と、その妻とは別の女性との間に生まれた寅次郎は、生まれたばかりの時に父の父が営むだんご屋の前に捨てられた。だんご屋の嫁である車光子は、そのすべてを飲み込んで自分の子どもとして育てようと決心する。本来なら夫への怒りを寅次郎への憎しみに変えてもおかしくないと思うのだが、光子は寅次郎には何の罪もないというように、我が子同様深い愛情を注ぎ続ける。その言動は慈愛にあふれている。

ドラマを見ながら納得することが多々あった。なぜ、寅さんが旅に出たのか、なぜ、渡世稼業をしながらも大きく道を外さなかったのか、なぜ、どこか憎めないキャラクターになったのか、な

ぜ、惚れっぽい人なのか。すべては、母光子に起因するものではないか、と想像してしまった。母の言葉が寅次郎の人生を作ったといってもいい過ぎではないように思う。

寅次郎がどんなに悪さをして、困ったことをしても、光子は「お母ちゃんは、寅ちゃんが大好き」と言い続ける。周りの人にも「子どもにとって一番大事なことは、味方になってくれる大人がいることだ。これからも（寅ちゃんを）よろしく」と、さりげなく伝える。そんな言葉を遺して、若くして母は逝ってしまう。その直後に寅次郎は旅に出るのだ。

寅さんを支えた「大好き」の言葉と「味方になる大人」の存在、子どもが大人になっていくうえで大切なことを、このドラマで教えてもらった気がした。(W)

センター長のつぶやき

「箱根駅伝」万歳

「箱根駅伝」を横浜で応援するようになって7年。今年の96回大会は、青山学院が「やっぱり大作戦」で2年ぶり5度目の優勝をはたした。総合タイムだけでなく、10区間中7区間の記録が塗り替えられ、記録づくめの大会となった。

全選手210人中177人が、厚底にカーボンプレート内蔵の靴を履いた。我が母校日体大は、在学中に5連覇し、白地に桜のユニフォームを必死で応援したことを思い出す。その日体大は、今年9区で、たすきがつながらず繰り上げスタートとなった。

上位10校だけがシード権を獲得できる。10位と11位の間にはとてつもない溝が存在する。昨年10月の予選会に参加した大学は43校であった。参加校10人の合計タイムから、上位10校が本戦に進むことができる。過酷である。

なんといっても正月の風物詩「箱根駅伝」。

100回大会も鶴見で元気に応援してたいものだ。大きな勇気をいただいた今大会にも感謝。

210人の必死の激走と、それをサポートした皆を優しく富士が見守っていた。(DOIG)



巡回発達相談

〈お膝に抱っここの読み聞かせ〉

以前勤務していた幼児教室でのことです。帰り際にお母さんが、「言葉も心配なのですが、気に入らないと癇癇を起して、泣き叫んだり物を投げたりします。園でもありますが、家では特にひどいんです。」と言われました。年長のS子ちゃんです。笑顔がないのが気になっていました。両親は共働きで忙しく月に1~2回来るのが精一杯でした。

そこで、お母さんにお膝に抱っこで絵本を読み聞かせるように提案し、帰りに何冊か絵本を貸し出しました。すると、2か月ぐらいたった時、来所するS子ちゃんがニコニコしていることに気づきました。

お母さんにどうしたのかお聞きすると、「私、主人、小学生の兄、みんなでS子を交代で膝に抱っこして絵本を読むようにしたんです。今では各々の膝で自分で絵本を読んでもくれます。」と...

ご家庭の様子が目に浮かびます。S子ちゃんは笑顔で小学校に入学しました。(A)



伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

(電話) 089-989-6226